

## 市長記者会見記録

日時：2017年12月5日（火）11時02分～11時56分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：第8期川崎市市民文化大使の決定について（市民文化局）

### <内容>

#### ≪第8期川崎市市民文化大使の決定について≫

**司会：** それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。

本日の議題は、第8期川崎市市民文化大使の決定となっております。

それでは、福田市長から第8期川崎市市民文化大使の発表並びにご紹介をさせていただきます。市長、よろしく申し上げます。

**市長：** それでは、このたび第8期の市民文化大使11組が決定いたしましたので発表させていただきます。お手元のパンフレットをごらんください。

市民文化大使は、平成15年度に創設いたしまして、市内外の講演会や行事、姉妹・友好都市への訪問、そしてご自身の活動の中で本市をアピールするなど、ご尽力をいただいております。

それでは、まず、新しく就任された方をご紹介します。

まず、大矢紀様です。日本画家として、厳かな大地の胎動やみずみずしい生命の輝きを描き、昭和30年に院展で初入選され、以降、多く賞を受賞されておられます。

続きまして、SHISHAMO様です。川崎総合科学高等学校軽音楽部にて結成されまして、卒業後に本格的にバンド活動を開始されました。10代から20代の女性を中心に絶大な人気を誇っていらっしゃいます。

続きまして、第7期から引き続きご就任いただく方をご紹介します。

与勇輝様です。本市のご出身で、人形作家として国内外で高い評価を得られており、世界各地で数多く個展を開催されるなどご活躍でいらっしゃいます。

続きまして、伊藤多喜雄様。民謡とさまざまなジャンルをコラボレーションされ、中でも「南中ソーラン」は、日本のみならず海外でも幼児から若者・高齢の方まで幅広く踊られています。

続きまして、鶴澤久様。観世流シテ方能楽師として、国内外の公演、また現代演劇にも出演され、その舞台成果は高く評価されておられます。

続きまして、大谷康子様。人気、実力ともに日本を代表するバイオリニストであり、テレビ番組「おんがく交差点」では、毎週司会と演奏を務めていらっしゃいます。

続きまして、小原孝様です。ピアニストとして幅広い人気を集められ、全国各地でのコンサートやラジオなどで活躍されているほか、被災地支援のボランティア活動にも積極的に取り組まれておられます。

続きまして、佐藤征一郎様。声楽家として国内外でのコンサートやオペラなどで活躍されているほか、長きにわたり市民文化の振興にご尽力をいただいております。

続きまして、成田真由美様。競泳のパラリンピックメダリストで、2015年に7年ぶりに競技に復帰し、リオパラリンピックでアジア新記録、日本新記録を更新されました。

続きまして、パンチ佐藤様。プロ野球引退後、元気配達人をキャッチフレーズに、テレビ、ラジオ、講演会など幅広く活躍され、多くの方々に元気を届けていらっしゃいます。

また、本日はご欠席ですが、国府弘子様も市民文化大使にご就任いただきます。国府様は本市のご出身で、ジャンルを超越した幅広い音楽性でオンリーワンのピアニストとして人気を集めていらっしゃいます。

ご紹介は以上でございます。

**司会：** それでは、続きまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

**市長：** ただいま11組の皆様にも市民文化大使のご就任をいただきました。先ほど申し上げたように、ご自身の活動の中で、あるいはさまざまな活動の中で、この川崎市のすばらしさというものをアピールしていただければと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

**司会：** それでは、本日ご出席をいただいております市民文化大使の皆様にも一言ずつお言葉をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

初めに、大矢紀様、お願いいたします。

**大矢 紀 氏** おはようございます。日本画を専攻しております大矢紀と申します。

川崎というのは、皆さんご存じのように、東京と横浜に挟まれた都市で、どちらかという文化とか芸術とかには、ちょっと今までは縁が遠いんじゃないかなと、こんなふうに思っていますけれども、折に触れて、オリンピック・パラリンピックが間近に迫っております。そういう中で、少しでも川崎の、より高い文化を発信できれば、こんなにうれしいことはございません。これからも頑張っていきたいと、こんなふうに思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

**司会：** ありがとうございます。

続きまして、SHISHAMOから宮崎朝子様、お願いいたします。

**宮崎朝子 氏 (SHISHAMO) :** こんにちは。SHISHAMOと申します。

私は生まれも育ちもずっと川崎で、ほんとうに川崎一筋で生きてきたんですけれども、そんな川崎の文化大使に選んでいただけるなんて、ほんとうに想像しておりませんでしたので、ほんとうに川崎という名前をしょってバンド活動ができるのがとても光栄に思います。ありがとうございます。(拍手)

これからもより一層、いい音楽をつくり続けて、それが川崎の元気につながればいいなと思います。精いっぱい頑張ります。よろしくお祈りします。(拍手)

**司会 :** ありがとうございます。

続きまして、与勇輝様、お願いいたします。

**与 勇輝 氏** 私は人形をつくっております。1937年、ちょうど日中戦争勃発の年ですね。今の川崎フロンターレ、あの辺が水壕だったんですね。そのところが私たち子供の遊び場でした。食べ物も少なく大変苦しい時代でしたけれども、やっぱりあのころの子供がどうしてもイメージの底にありまして、これからもずっと負けない、強い子供をつくっていかうと思っております。よろしくお祈りいたします。(拍手)

**司会 :** ありがとうございます。

続きまして、成田真由美様、お願いいたします。

**成田真由美 氏 :** 皆さん、おはようございます。私は再任ということなんですけれども、日本全国、仕事でいつも川崎市民文化大使の名刺を使わせていただいています。そして、今日、また新しい名刺をいただいたんですけれども、名刺の裏に「パ」という片仮名の文字が描かれてあります。多分皆さんの中で、「パ? えっ?」って思われるかもしれませんが、市長と2人で共同委員長をしていますパラムーブメントの「パ」というところで、多分日本でこれからまた名刺を使う際に、「『パ』って何ですか」ってきくと聞かれると思うんですけれども、そこでまたパラムーブメントの話をして、またもっともっと川崎のことをお話しできるんじゃないかなと思って、今わくわくしています。

私も、生まれも育ちも川崎で、このようなことでほんとうに日本全国回れることをとても誇りに思いますし、これからもこの川崎をもっともっと大好きでいたいと思いますので、よろしくお祈りします。(拍手)

**司会 :** ありがとうございます。

続きまして、伊藤多喜雄様、お願いいたします。

**伊藤多喜雄 氏 :** おはようございます。伊藤多喜雄です。

私は、北海道苫小牧で生まれたんですけど、実は川崎に住み始めて50年たちました。50年前には民謡も歌っていたんですけど、高津区久地というところに住んでお

りまして、まさか50年前に高津区久地でアレンジしたソーラン節が、このように全国に、また世界に皆さん方が興味を持って、子供たちが舞い踊ってくれるということがとても夢のようでございます。川崎で歌をつくれたということは、やはり生まれた北海道のことを川崎の地で一生懸命になって思い起こし、そしてこの地で頑張らなきゃいけないという気持ちを歌に託してきました。

この後、私は関西の公演からベトナムに行きます。ベトナムもハノイ、ホーチミンではソーラン節をやっております。そして、2020年の東京オリンピック・パラリンピックには、全国の子供たちと川崎の子供たちが一緒にソーラン節の演舞ができるように今計画中でございます。応援をよろしくお願いいたします。ありがとうございます。(拍手)

**司会：** ありがとうございます。

続きまして、鶴澤久様、お願いいたします。

**鶴澤久氏：** おはようございます。鶴澤久と申します。

川崎には能楽堂が小さいながらもございます。そこで定期演奏会、定期演能をずっともう何十年も続けていらっしゃるところは、地方公共団体でも全国で川崎市だけだと思っております。今度、オリンピックもあります。パラリンピックもあります。そして、日本の文化、芸術、そういうものをぜひ川崎から発信するぐらいの気持ちで私もやっていきたいと思っておりますし、また、川崎市で今夏休みにやっている子供向け、また一般向けもオーケーなんですけど、来年で28年間ずっと続けております。能というものが700年近い日本の歴史を背負って、そして現在にも受け継がれているという、この能という舞台芸能を世界の人に見てもらいたいと思います。そして、このように続けてきている芸能は、世界にも能しかありませんので、それを川崎から私も思って頑張らせていただきます。また2年間、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。(拍手)

**司会：** ありがとうございます。

続きまして、大谷康子様、お願いいたします。

**大谷康子氏：** 皆様、おはようございます。バイオリンの大谷康子です。

今年でデビューしてから42年になりますけれども、この川崎にご縁ができてから、ほんとうに「音楽のまち・かわさき」という中で活動させていただけて、私の夢が、音楽でみんなが仲よく、少しでも世界が1つにならないかしらというふうにずっと思って活動してきましたので、大変うれしく、またこうやって選んでいただけて、大変光栄に思っております。ありがとうございます。

つい最近も、1週間前でしたか、議場のほうで弾かせていただきまして、議員さん

たちも、そして職員の方たちも一生懸命聞いてくださって、そして傍聴席もいっぱいでした。これからもそういう、ふだんなじみのない方もいらっしやるかもしれないけれども、一度聞いてくださったら、みんなが音楽大好きと、そういうふうになっていくような地道な活動をしたいと思います。

特に、その日も午後は川崎中学校のほうに行かせていただきましたが、人はいろいろな人がいてこそ社会は成り立っていて楽しいものです。みんなが一緒だったらつまらないので、そういう、みんな一人一人違っていいんだよということを、バイオリンをもって伝えさせていただくことも毎年やらせていただいています。学校を回るんですけども。今日もこうやって拝見しても、SHISHAMOさんも、そして伊藤さんも、小原さんも、佐藤先生もですね、みんないろんな音楽がありますよね。だから、そういう音楽1つとってもいろんなことをやりながら、みんなが少しでも音楽の力で仲よく幸せになっていけるように、これからも地道に活動していきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

**司会：** ありがとうございます。

続きまして、小原孝様、お願いいたします。

**小原 孝 氏：** おはようございます。小原孝です。どうぞよろしく願いいたします。

僕は、川崎市生まれ川崎市育ちで、もう随分長く、ずっと川崎にお世話になっております。そして、「音楽のまち・かわさき」ということで、大谷さんともご一緒させていただいたり、音楽で川崎をアピールしていくことを考えております。

そして、復興支援活動をずっと並行してやっております、こちらのほうも川崎市から非常に援助いただきまして、去年は気仙沼にピアノをお届けする、そして熊本にも何度も行かせていただきました。そういうところで、音楽を通して復興支援活動を続けています。

また、ちょうど12月からNHKの「みんなのうた」で「私はブランコ」という曲を、荒木由美子さんが歌っているんですけども、そちらのほうを作曲しております。荒木さんはアイドル歌手としてデビューしましたが、今、介護の関係のお仕事を中心にされています。復興支援活動と同時に、介護関係のことも音楽で何かできたら、そういったことを「音楽のまち・かわさき」の川崎市から発信できたらと思っております。また頑張りますので、よろしく願いいたします。(拍手)

**司会：** ありがとうございます。

続きまして、佐藤征一郎様、お願いいたします。

**佐藤征一郎 氏：** おはようございます。クラシック声楽をいたしております佐藤征一郎でございます。

毎年、銀座の王子ホールなどでドイツ・ロマン派歌曲を中心に年1回、発表を続けております。一方、私が住んでおります高津区、溝ノ口から1つ田園都市線で行きますと梶が谷という駅があるんですが、その地域のクラシック声楽家、演奏家、それと合唱団の皆さんで「わがまちふれあいコンサート」ということを、10月8日に第5回目を開催することができました。地元の方たちとクラシック音楽になじんでいただく努力を続けております。

そして、この回は大変大切な意味を持っているんじゃないかなと今みんな話しているんですが、つまり川崎市歌を会場の皆さんと舞台の出演者一同で歌ったんです。これからもぜひ川崎市歌を川崎市民の皆様に楽しんでいただこう、歌っていただこうというその思いで、これが第1回目であると思っておりますが、そういうことで、地方におきましても皆様の何かクラシック音楽がお役に立つことを願い、また東京では東京で、ドイツ・ロマン派の日本を代表する声楽家の皆さんと一緒に演奏活動、両方を務めております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

**司会：** ありがとうございます。

続きまして、パンチ佐藤様、お願いいたします。

**パンチ佐藤氏：** おはようございます。フロンターレが優勝しました。小杉がどんどん発展していっています。このようなニュースはテレビや雑誌がばんばん取り上げてくれるので、僕は昔から川崎を盛り上げてくれるお店だとか、そういうのをブログやフェイスブックでどんどんこれからも発信していこうと思います。

「男には帰れない夜がある」、川崎ビッグ、リニューアルしました。大島四ツ角にはみさわ屋という焼き鳥屋さん、お昼過ぎから魂の串打ち。大島三丁目にはそば屋の八千代、キャッチフレーズは「昼から飲めます」。その奥にはもんじゃ焼きの大将と、そういうお店にこれからもどんどん行って、食べて、発信していきたいと思います。

それから、成田さんが4年前に市役所に来るときに、エレベーターで、車椅子なんだけども私を押しつけていく人がいてとかいうことを言っておられましたけれども。昔は川崎というと「川崎？ ええっ？」、今じゃ「川崎！」。もうね、川崎は今すごくいい形でどんどん発展していているんですけども、そここのところ、ぱっと僕がボタンを押してあげたり、譲ってあげたり、あのおじさん、格好いいな、僕もあんなおじさんみたいになりたいなと言われるような、そんな形で文化大使としてもこれからも頑張っていこうと思います。よろしくお願いいたします。(拍手)

**司会：** 皆様、ありがとうございます。

それでは、ここで質疑に移らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件の質疑終了後、改めてお受けしますので、よろしくお願いいたします。

す。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

**幹事社：** 今月の幹事社です。よろしくお願いいたします。

2点お伺いします。新任のお二組の大矢さん、SHI SHAMOの皆さんのそれぞれの選任の理由というか、大きなポイントについて、市長のお考えがあればお伺いできればと思いましたが、あと皆さんから力強いメッセージがありましたが、市民文化大使の皆さんに期待すること、もしくは市の文化振興に向けて、これからどのようなスタンスで臨まれていくのかということについてお伺いできればと思います。

**市長：** 選考の理由というのは、これまでも設置要綱に基づいて厳正な審査という形で、市民または各区、局、室の推薦を受けてという形の、そのプロセスを経て、市民文化大使選考委員会の中で議を経て行われたということでもあります。

今回のSHI SHAMOさんと大矢紀さんに関しても、ほんとうにお二人の特筆する活動はもうご案内かと思えますけれども、大矢先生は数々の受賞、日本を代表する日本画家でありますけれども、今回も川崎市にご自身の作品を多数ご寄贈いただいて、そして先月も大矢紀展というのを市民ミュージアムで開催するなど、ほんとうに日本を代表する画家というのがこの川崎にいらっしゃる、活動を続けていらっしゃるということを広く市民の皆さんにも知っていただきたいと思えますし、また、大矢先生が感じておられることを市内外に発信していただきたいと思っています。

SHI SHAMOさんに関しては、今年は紅白歌合戦の出場が決まりということで、初出場ということで大変なニュースになりましたけれども、まさに川崎の川崎総合科学高校が生んだ地元のバンドで、川崎のことをもういろんなところでアピールしていただいている、文化大使になる前から川崎なんですということを常に言っていて、それこそフロンターレのチャントにもなっていくぐらいの、そういった、愛されていますけれども、ほかの全国の、例えばサッカーサポーターのところから、フロンターレはずると、SHI SHAMOが応援についているというふうに言われるぐらい、SHI SHAMOイコール川崎ということを、市外の皆さんにも広く知られているぐらい活動していただいております。さらに、文化大使ということで、もっともっとアピールしていただければ大変ありがたいなと思っております。

それから、これまでご就任いただいていた、引き続き再任をお願いした皆様には、今ご挨拶いただいたとおり、それぞれの活動のところで大変川崎市をアピールしていただいて、かつ、市内外の、市内の皆さんにもそれぞれのお住まいの地区でコンサートをやっていただいたり、ほんとうに頭の下がる、こういう立派な方々が地元でアピールしてくださるといふ、また活動していただくことが文化振興に大いに貢献していただいていると思っております、これからもぜひ引き続いて力をかしていただき

いなと思っております。

**幹事社：** わかりました。ありがとうございました。

幹事社からは以上ですので、各社。

**司会：** いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後に写真撮影の時間とさせていただきます。

(写真撮影)

**司会：** それでは、以上をもちまして、本件につきましては終了いたします。

ここで市民文化大使の皆様につきましては退室いただきますので、よろしくお願いたします。あわせて、関係理事者についても退席をさせていただきます。

**(市政一般)**

**《川崎フロンターレ優勝記念パレードについて①》**

**司会：** 引き続きでございますが、ここで福田市長から1点、話題提供させていただきますが、お手元にお配りしました「祝！リーグ戦初制覇!! 川崎フロンターレ 2017 J1リーグ優勝記念パレードを実施します」についてご覧いただきたいと思いますが、2枚目をお開きいただければと思います。

それでは、市長、よろしくお願いたします。

**市長：** それでは、事前にご案内をしておりますけれども、もう一点、話題提供させていただきます。

既に皆様へお知らせしたところでございますけれども、川崎フロンターレが2017明治安田生命J1リーグで優勝をし、念願の初タイトルを獲得されたことを、市民の皆様とともにお祝いするため、12月10日に優勝記念パレードを実施いたします。ぜひとも多くのサポーターや市民の皆様においでいただきまして、この喜びを分かち合いたいと思います。

また、川崎150万市民に夢と希望を与えてくださいました、この功績をたたえまして、川崎フロンターレには川崎市スポーツ特別賞を贈呈させていただきます。贈呈式につきましては、優勝記念パレードの際に行うことを予定しております。

さらに、このたび、小林悠選手がJ1リーグで得点王のタイトルを獲得されました。チームのキャプテンとして、そして優勝の立役者となった活躍ぶりに改めて敬意を表しますとともに、この功績をたたえまして、チームとは別に小林選手個人にも川崎市スポーツ特別賞を贈呈させていただきます。なお、贈呈の場につきましては、後日別途お知らせさせていただきたいと思います。

以上でございます。



**司会：** それでは、改めまして、ここで市政一般とあわせて質疑に移らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

**幹事社：** 引き続きよろしくお願いいたします。まず、フロンターレのJ1初制覇ということで、市長も等々力に行かれていたんですよね。これについての受けとめ、当日の様子とかも踏まえて、どんなふうに感じられたかということをお伺いできればと思います。

**市長：** ほんとうに勝利を、このシーズン通してですね、タイトルをとということで勝利を信じて応援してきましたけれども、しかし、今年こういう日が来るとは、ほんとうに夢のようなことが目の前で起きて、私もそうですけれども、この21年間、クラブをサポートし続けたサポーターや、そして、市民の皆さんに改めて、お互いに喜び合いたいなど、おめでとうということをみんなで言い合いたいと思いました。会場は大興奮でありまして、ほんとうに選手の皆さんや、監督や、クラブの関係者みんなに感謝したいなと思っています。

#### 《収支フレームについて①》

**幹事社：** わかりました。ありがとうございます。

市政一般というか、先日、財政運営のことでかなり厳しい見通しをお示しになりましたけれども、それについて、議会でも冒頭で触れられておられましたが、改めて、特にプライマリーバランスを先送りすること、せざるを得ないという市財政の状況について、市長のご認識をお伺いできればと思います。

**市長：** 予想以上に厳しいということが今回改めて精査の中で出てきまして、歳入面でも歳出面でもお互いにそれぞれに厳しいということですから、よりこれから絞り込んでいくものを精査していかなくちゃいけないなど。これから毎年毎年厳しい予算編成というのが続いていこうという事は間違いないことなので、来年度予算編成からも緊張感を持ってやっていきたいと思っています。

**幹事社：** 市長選から1カ月ほどで、ああいう見通しの先送りというものを出されたことに、市長選でも財政運営というのが1つの焦点になったかと思います。出すタイミングとして、ちょっと、市長選前にああいうのを出せなかったんだろうかというふうに思った部分もあるんですが、その点についてはいかがでしょうか。

**市長：** これは、選挙の有無にかかわらずですけれども、第2期実施計画に向けて出すという、計画的にやっている話ですから、何か選挙前だとか後だとかという政治的な、よかったら出すとか、悪かったら出さないとかと、そういう位置づけのものではないとは思っていますし、そういうものだと思います。

**幹事社：** わかりました。私からは以上です。

### 《ヘイトスピーチについて》

**幹事社：** 幹事社です。お願いします。

先日、内閣府で人権擁護に関する世論調査というものが発表されたんですが、その中でヘイトスピーチに関する認識度が、「知っている」と答えたのが57.4%で、「知らない」が42%ぐらいだったんですけれども、この中で、ヘイトスピーチというところと川崎市でかなり、去年いろいろ実施されたというのがありますが、今後、人権擁護条例の制定も含めて、この数字というのはどういった、多いと見るか少ないと見るかというところを含めて、市長の認識を伺いたいんですが。

**市長：** これは全国の調査で。

**幹事社：** 全国です、はい。

**市長：** ヘイトスピーチということを知っているか知らないかですか。

**幹事社：** そうです、はい。

**市長：** そうですか。ヘイトスピーチのことを知らないという方が四十……。

**幹事社：** 42%です。

**市長：** 42%。そうですか。知らない人がいるのかというふうに正直思いますけれども。何となく身近じゃない方というのが全国にいらっしゃるんじゃないかなとは思いますが、ただ、私たち川崎にとってもこの問題というのは大変重要なことだと思っていますので。その数字についての感想というと、意外と知らない人も多いのねという感じですかね。すいません、何か答えになっていないかもしれませんが。

**幹事社：** 幹事社からは以上です。

### 《収支フレームについて②》

**記者：** 先ほど幹事社さんの質問で、財政見通し、収支フレームですか。これ、結局厳しいということ、任期中は減債基金にずっと頼るという形になって、厳しいということなんでしょうけど。先ほどおっしゃった、歳入歳出ともに厳しいという言い方をされたと思うんですけど、これ、多分国の財政制度とか、または歳出のほうだと行政需要がどうしても膨らむので、それに対応しなきゃいけないというもろもろの考え方があってのことだと。もう少し歳入歳出、どういうふうに見ておられるかというのをお聞かせいただいてもいいですか。

**市長：** これまでのところでいうと、例えば消費税の先送りでありますとか、ふるさと納税の影響額というのが出てきているとか、あるいは今後の話、どうなるかわかり

ませんけれども、消費税の話だとか。これはずっと言い続けている地方税財政制度の話からすると、川崎は不交付団体となっておりますけれども、決して豊かではないというのは、例えば政令市20市の中で、臨財債と交付税を合わせた額で比べてみますと、川崎市は18位という状況になりますから、そういった意味では不交付団体イコール財政が豊かだという構図が成り立たないというのは、これを見ただけでもすぐわかると。

ですから、非常にバランスが悪いなというか、措置されていない部分というのが非常に多いと思っていますし。ただ、国全体の交付税の額そのもの、総量が決まっていた、かつ少なくなっていく中で、小さくなっていく、シュリンクしていくパイの中で、どう地方の中で分け合っていくかという話なので、川崎は不交付団体という形になってしまうと、何ていうんですかね、いろんなもの、例えば予防接種みたいなものが新しく追加になっても、川崎市さんは不交付団体ですからという形で、出ないわけで、単独の支出になっていくわけなので、もろもろ、ほんとに川崎市にとっては非常に厳しい状況になっているなと思います。この仕組みについては、市としてもしっかり国に訴えていくということをやっていかなければならないと思っています。

それと、歳出の面においては、今おっしゃっていただいたように、これからも続く待機児童対策みたいなもので支出は出ていきますし、障害、高齢、こういったところの部分というのは、これからも拡大していくことは間違いないことだと思っていますので、そういった意味でも厳しいと思います。

**記者：** そういう状況の中では、絞り込むところは絞り込んでと、これ、どの辺をイメージされているのでしょうか。

**市長：** ほんとうにオータムレビューのところでもかなり厳しいなという感覚の中で精査していっていますけれども、場合によっては、計画してきたことを少し先送りしてでもということも判断しなくちゃいけないことが出てくるんだろうとは思っています。

**記者：** 今、具体的に考えておられることはありますか、来年のことを。

**市長：** いや、今の段階では、申し上げる段階ではないなと。

**記者：** わかりました。

### 《アクアラインについて》

**記者：** 今月18日に東京湾アクアラインが開通20周年を迎えるんですが、これまで東京湾アクアラインが川崎市にとってどういう役割というか、意義を果たしてきたと考えておられるか、今後の川崎市にとってどうなのか。それと、現状、休日には慢性的な渋滞が発生しているとか問題もありますけれども、今社会実験で、ETC割引

で大幅に料金が引き下げられていることも含めて、そのあたりを、川崎市として何かこうしてほしいとかいうことがもしあればお聞かせ願えますか。

**市長：** アクアラインそのものの川崎市への影響については、少し改めて勉強した上で、調べた上でちゃんとお話しさせていただきたいと思います。ほんとに週末は非常に混んでいて、アウトレットだとかに向かう車だとか、ゴルフだとかというので非常に混んでいるということもありますから。料金設定の仕方というのが、安くしたことによって使われる方が非常に多くなったことというのは大変いいことだと思いますけれども、それがプラス面、マイナス面というのを、どういう料金設定で今後もやっていくのかというのは、1つの課題ではないかとは思っています。

今後の話になりますけれども、あくまで個人的な感覚の話でありますけれども、臨海部も、これから川崎の再活性化に向けて、臨海部ビジョンを今つくっているところでありまして、東京湾全体としての活性化というのは、これからもっともっとあるので、東京、川崎、横浜側だけではなくて、千葉県側にも大きなポテンシャルがあるのではないかと考えています。

そういった意味でのアクアラインの可能性というのは、単に週末だけの話ではなくて、もっともっと大きな可能性を秘めている重要なインフラではないかと、私は個人的には思っております。

**記者：** ありがとうございます。

#### 《本庁舎建て替えについて》

**記者：** 2019年着工の新庁舎の基本設計が出ましたけれども、市長もいろいろと思いを込めて基本計画に参画されていると思います。新庁舎に対する思いといたしまして、どのようなことを、市長として、こういうところがアピールポイントだみたいなところがありましたらお聞かせ願いたいんですが。

**市長：** まず、今回の建て替えにあたって一番重要なのは、市役所としての、いわゆる危機事象というか、防災能力を高めていくということが何よりも重要な視点だと思っておりますので、そういった意味での機能というのは、今回の基本設計の中でしっかりと盛り込まれていると思います。

震災でありますとか、あるいは万が一の津波の状況になって、浸水ということがあっても電源が確保されるとかということにも十分配慮された、そういった設計になっていると思いますし、とにかく150万市民の命を守っていくという、その司令塔になるわけですから、そういった意味での機能が果たせるということが何よりも今回の建て替えで大事だと思っておりますし、そうになっているのではないかと考えています。

## 《臨海部ビジョンについて》

**記者：** 先ほど市長もちよっと触れられたんですけど、臨海部ビジョンのことなんですけど、委員会のほうで、素案という形で結構細かいのが出されたんですけども、ずっと市長は有識者会議も全部出席されて、いろいろな議論もずっと踏まえながらかわってきたと思うんですけども、まず、その中身についての、どういうところに一番重きを置いたのかというのがまず1点。

あとは、こうなればいいなということがたくさん書かれているんですけども、今後どういうふうに移していくかというのは、中身によっては、例えば交通インフラとか非常に難しい、ハードルの高いものも結構多々入っているようですが、その辺はどういうふうに移していこうという、その辺の意気込みみたいなものを改めて教えてください。

**市長：** 何度かここでお話出ておりますけれども、この約2年間かけてつくってきた臨海部ビジョンには、ほんとうに私たち行政の考え方を示すということではなくて、臨海部の立地企業の皆さんだとか、有識者を含めて、ほんとうに幅広い議論を行った上でまとめてきているものでありまして、そういった意味で、みんながこのビジョンを共有しているという前提になっていると思います。

このビジョンに向かって、具体的に、そういうふうな方向性、30年後はこういう姿だと、それに向けて今からどうやっていくのかということそれぞれのリーディングプロジェクトでやっていきますので、極めて、絵空事ではなくて、将来のものに向かっての道筋が具体化されるビジョンのつくりになっているかと思っています。

それぞれのリーディングプロジェクトにしても、それが企業同士で、企業の中で完結するものから、あるいは企業と行政とかといういろんな組み合わせがあるので、それに基づいてしっかりと実行していくということが大事だと思いますので、このビジョンをビジョンとして終わらせることなく、しっかりと着実に実行するためのビジョンなので、汗をかいていきたいと思っています。

**記者：** 交通インフラなんかは結構、活性化ということについては非常に大事な要素だと思うんですけども、アプローチ線とか、今までも交通計画の中に入っているものだと思うんですけども、改めて臨海部ビジョンでやるよということを示しているわけですけども、その辺はどうですかね。現状の、非常に課題は多々あるのは重々承知していますけれども、その辺は見通しとしてはどうですかね。どんな感じで進めていかれるのか。

**市長：** 臨海部の活性化に交通インフラの強化というのは欠かせないことだと思います。その中でのアプローチ線という位置づけですけども、おっしゃるとおり課

題、ハードルは幾つもあります。そのハードルをいろんな事業者の皆さんだとかで一つ一つクリアしていくということが実現のためには必要なもので、それに向けてそれぞれがまず努力をしていくということだと思います。

**記者：** わかりました。

### 《収支フレームについて③》

### 《川崎フロンターレ優勝記念パレードについて②》

**市長：** 2点お伺いします。

先ほどから何度か出ている収支フレームの話で、先ほど、どこを削るということは、まだ考えていないとおっしゃいましたが、先日の市長選で、市長が掲げられて戦われたマニフェストについても、削るとか先送りする対象からは外さない、そこも含めて考えていくというふうに捉えてよろしいですかというのが1点です。

もう一点がフロンターレの優勝パレードなんですけれども、これ、大変おめでたいことで、市長ご自身もサッカーの大変なファンということでお喜びかと思えます。市民からもとても人気が高いチームということで大勢の方がいらっしゃると思うんですが、パレードの場所として市役所近辺を選ばれた理由について教えてください。競技場は中原区で、市の中心部ということで、川崎市はちょっと特殊な形状といいますか、細長い形になっていて、いろんな方が来やすくなる場所という意味では、もう少し市の中心に近いようなところのほうが大勢の方がいらっしゃりやすかったのかなという感想もあるんですが、その辺のところをお聞かせいただけますでしょうかというのが2点目です。

**市長：** まず、財政が厳しい中で、私のマニフェストで掲げたもので削るものがあるかという……。

**記者：** そこも含めて削る対象になるのかということです。

**市長：** それは、どれも聖域はないと思いますが、ただ、今回、私のマニフェスト自体、そんなにお金のかかるものは書いていないので、それほど、ローコストマニフェストだというふうに思っていますので。ただ、姿勢としては、全て聖域なくというふうには思っています。

**記者：** ありがとうございます。

**市長：** それと、市役所前でのパレード、中原区ではなくと。

**記者：** 中原に限らないんですけれども、わりと端っこのほうでやられるということになったのは。

**市長：** いろんな検討はありました。検討はあった中で、やっぱりふさわしいのはど

こかといったときに、最終的に決まったのが市役所前という形ですね。いろんなご意見はあると思います。狭過ぎたり、ちょっとアクセスが悪かったりとかというのはそれぞれに一長一短がある中で、ここにしようかという形に決まりました。

**記者：** 道路が広いということは結構大きかったのでしょうか。

**市長：** それは大きいですね。

**記者：** あと、大きな駅があるとか、その辺のところもポイントになったのでしょうか。

**市長：** これが決め手という話ではないですけれども、それぞれの長所と短所というのが、幾つか候補地が挙がった中で、やはりここじゃないかという総合的な話です。

**記者：** わかりました。

**司会：** いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

---

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355